

# 八夕 磐城時報

編輯部 石城郡平野町十四丁目  
印刷部 石城郡平野町十四丁目  
發行所 石城郡平野町十四丁目  
電話 一三三三  
代印部 石城郡平野町十四丁目  
電話 一三三三  
代印部 石城郡平野町十四丁目  
電話 一三三三

## 市制を目論む平町 三市と比較調査

平町では市制實施を控へて縣内七關係者は數年來より通信機關三都市福島、若松、郡山の最近の充實方につき當局に陳情中の諸勢を調査した。その結果、各都市の交通、汽車、貨物取扱、郵便、電話、汽船、貨物取扱、各種税額等に就き比較して見る。郵便爲替等は第四位にあるが貯蓄に於ては預入口數が七萬三千六百三十三圓、年額二百八萬六千五百八十八圓、拂戻し口數一萬七千三百七十五圓、預入額百二萬八千四百八十四圓、福島市の地位にあり、乗降客は乗客百六萬三千五百五十九人、降客百二十二萬九千七百四十八人、計二百二十九萬三千七百七十三人、貨物輸入十七萬五千五百二十六噸、輸出五萬八千八百四十四噸で縣内第一位にあり、各種税額の中所得税が郡山市に次いで縣内第二位にあつて將來の發展は尠からず期待されるものがある。

## 着工期を繰上げ 二月早々着工 平町第三小學校

平町の四年度新入學兒童は本籍平町が平町では今月中旬まで敷地寄留とも合して六百五十名と決り、四千三百三十坪を買収この代金を定めたが常に狹隘を感じてゐる一萬二千七百餘圓を百澤外十一名に、第二小學校に六百餘圓の名の地主に支拂ふ由。

## 悪水豫防 議員改選

工し五月末までに完成すること、飯野、内郷一町二ヶ村聯合に變更した結果これに關する委員會を八日前十時から役場に開催土地の買収その他について協議するが同校の建築費金は借保より借入れることに決してゐるので着工期繰上げで借入れ期日は七日朝仙市簡易保險課に佛病豫防法に就き平野署では極力出頭説明を求めた上今月中旬に借同法の撤廢を期すべく努力して入れれることを契約同日歸町七來たが最近過る解釋を下し無

## 電話開通

石城郡平野町方面は通信機關不備のため取引上非常な不便を感

視せんとする者三現れたので斯くては同法を遵守してゐる同業者に悪影響をあたへるものであると平野署では一日午前十時半の營業者を平野樓上に招き豫防法について訓示をあたへた。

## 白銀青年 役員改選

平町白銀町青年團總會は七日午後六時から新藤屋支店に開き役員改選の結果左の如く當選した分團長高木喬、副分團長加藤正保、會計柳原徳造、幹事大塚八郎、赤塚登、大原虎雄、平田實、藤田勝次郎

## 出廻りも少なくて 米質も悪い

## 石城郡の 平穀物検査所で調査

平穀物検査所に於ける昨年十二月月末日現在の新米の等級検査を時から平町谷口樓で開く。うけた数は七千三百九十四俵、糯米三百四十四俵、合計七千七百八俵でこの中  
一等米二十二俵、二等米百二十七俵、三等米九百九十一俵、四等米四千六百四十三俵、五等米千七百十三俵、等外二百十二俵

## 平町會議員 關西視察

町長、助役も加はる平町會議員有志二十五名及び伏見町長、佐藤助役の一行は關西視察並に伊勢參宮を計劃中であつたが廿三日午後二時十八分平野發で出發十四日宇治山田市泊り、十五日參宮、同日高野山に參詣し十六日奈良より大阪に出で一泊、十七日大阪、十八日九の兩日京都市を視察、十九日夜行で歸京、二十日東京で解散の豫定である。

## 役にたつた生活

役にたつた生活は必ずしも値打のある生活ではないといふのが現代社會の定めである。役にたつた生活といふのは社會に益する有益な生活で、値打のある生活とは、金や名譽でよく報酬を受ける價値のある生活である。そして社會を益し人類に役に立つ有益な生活が必ずしも世間から尊重され、よい待遇を受けるものではないといふ不幸なことがある。

な經濟真理である。一例をあげれば、國民教育の大任を負ふて、いろはの字も知らない小さい人達を一人前の國民に育てあげたことに、終日忠實に働いてゐる小學校の教員などの生活ほど有益な生活はあまり多くありません。然るに社會は彼らを遇するにまことに冷酷であり、その經濟的報酬の如き僅かに月俸數拾圓にすぎないものが多くある。故に彼らは實に於ては堂々の指導階級又は中流階級であるのに、その經濟的地位に於ては貧乏階級に屬してゐるの

## 籍もなければ姓も判らぬ 獨りボツチのおたか婆さん

五日夕刻突然あの世へ旅立 役場吏員も珍話に目をパチクリ

親兄弟がなく親戚もなくまた世わする者もない天蓋孤獨のお婆さんが平町の材木町に三十年から住んでゐた。名はたか（六十一）といつて人に頼まれて質草を置きその都度幾何かの口銭を頂戴してはその日の夕刻を辛うじて送つてゐる。所が此質草通ひのたか婆さんが五日午後五時頃突如心臓病で死亡した、身寄りがないた

その日（六日）は日曜日であつたが幸ひ吏員もたか婆さんのお婆さんが平町の材木町に三十年から住んでゐた。名はたか（六十一）といつて人に頼まれて質草を置きその都度幾何かの口銭を頂戴してはその日の夕刻を辛うじて送つてゐる。所が此質草通ひのたか婆さんが五日午後五時頃突如心臓病で死亡した、身寄りがないた

## 鳥御料理 よせなべ類

仕出しは迅速配達致します  
平町南町平野館隣り  
鰻 蒲焼 魚 榮  
電話四二四番

時報文藝

病者ある家

いちふじはら  
電燈の色うらさくさくするむら  
その家には病者が横はつてゐる  
うれひの鬼がひしひしと  
冬の夜のある静寂の底  
そこで人が思ひにくれ……  
悲しむ……

（時計の秒針が止り、電燈は消える）  
火星の光りも衰へさびるゝゝ  
その家には病者が横たはつてゐる。

▼月の思ひ 遠藤涼風  
ゆるく流るゝ小川邊に  
浮ぶ月の顔  
その月眺め今日も又  
今は去りにし君思ふ  
思へば悲し去年迄  
この月眺め二人して  
一つマントに身をよせつ  
語りし事も今は夢  
あゝその昔はいづこにて  
外の男と手を取りて  
今宵出でけるこの月を  
如何に見つめてゐる事ぞ  
昔思ふでなれども  
この月見れば思ひ出す  
すぎし昔の物思ひ。

ハガキ集

（投票歓迎）  
▲世は不景氣なためか金に糸目のない遊野郎でも近頃は嘆中が淋しくなつたせいにか藝妓買ひをそれより一段下がつて草餅買ひと金をかけずに慾望の達しられる方面へと自然流れ出した。そのせいで草餅屋の繁昌すること影しく南町遊りの賑紀の衰れてゐることはお話になつたものではなからぬ。つちやな泥棒をあける事より良風美俗をつくるため淫賣行りをやつてくなんしよ（×子）

都々逸

「洋服は着よく丈夫で一般むきは品質本位の正札堂」  
甲乙の社員が或る會社のテープを測んで  
甲「いや此の頃の不景氣には困つたね……」  
乙「ウーン全く困るね、銀行は閉ぢたし」  
甲「時に付馬鹿に良い洋服をおごつたじやないか、何處で新調したんだね、色も素敵だね」  
乙「ウーンこれか、これは君も知つてゐる正札堂」  
甲「あアア停車場通りの」  
乙「そーだ宛に角正札堂は平町一番評判はいいからね」  
甲「全くだよ……評判のよい事驚くね、どうしてだらう」  
乙「それは君が君も逸にも」  
「洋服は品質本位の正札堂が着よく丈夫で誰もよく」  
とある様に品が良く價が安いからだよ」  
甲「成る程君は羨敵な都々逸を知つてゐるね」  
乙「アア洋服は正札堂に限る甲「アハハハハ」」

正札堂  
平町南町  
X光線科  
上田外科醫院  
電話一二九番

新時 一月十三日  
所 弊店階上  
三井呉服店  
品製會秀三友之婦主  
會列陳側帶の春新  
御用命下さい  
御用命下さい

共々存共△  
融金ノ易簡△  
蓄貯ノ味趣△  
團堅ト意誠△  
會商盛興城警

磐城病院改稱  
市原病院  
平町田町(電話一四四番)  
内科、小兒科 市原卯太郎  
外科一般、婦人科 市原陸郎  
花柳病科 市原三三男

新築移轉御披露(平町南町)  
耳鼻咽喉科 專  
氣管食道科 門  
病室完備…自炊の便あり  
平町南町 大和田醫院  
電話一七〇番

最新式大寫眞場完成  
二十五日開業  
時代の進歩に伴ひまして寫眞撮影場の大改革を計劃し工事中の處完成致しました。就ては從來のものより一層優れたる寫眞を御覽に入れ得る事と自信して居ます。何卒倍舊の御後援御引立の程を懇願奉ります。  
平町南町川岸通り(電話六一五番)  
岡山寫眞館 主敬白

ライト寫眞館  
移轉御披露  
從來平町仲田町に於て營業致居候處今回左記に理想的の寫眞場を完成し移轉仕候間倍舊の御引立に預り度く願上候  
平町搔捕小路(魁文堂隣)  
ライト寫眞館  
電話八四七番

オピール錠  
咳止の妙藥  
藥學博士 丹波敬三先生製藥指導  
醫學博士 豊島豊次郎先生動物試驗  
平町一丁目(電話四六二番)  
大平屋藥店

内臓外科 專  
骨關節外科 專  
整形外科 門  
藤本 順  
産科 科  
婦人科 科  
木村寅次郎  
外科 科  
産婦人科  
木村醫院  
平町新川町(電話一六四)